

初冬の作劉景文贈る

蘇

軾

荷は尽きてこ  
雨を擎ぎさ  
蓋無

菊は残して猶  
霜に傲る枝有

一年の好景君須らく記す

正是橙黄橘绿の時

【作者】蘇軾(一〇三七〜一一〇一年)、中国北宋代の政治家、詩人、書家。東坡居士と号したので、蘇東坡(そとうぼ)とも呼ばれる。字は子瞻

(しせん)。蘇洵の長子、弟は蘇轍であり、この三人に韓愈・柳宗元・歐陽脩・曾鞏・王安石を加えた八人を「古文」の唐宋八大家という。子に

蘇邁、蘇迨、蘇過、蘇遜ら。曾孫は蘇公弼(威州刺史)、玄孫娘に耶律楚材夫人(蘇公弼の娘、耶律鏐の生母)がいる。

【語釈】\*初冬作贈劉景文…初冬の作、劉景文に(この詩)プレゼントする。 \*荷…ハスの花。 \*蓋…傘(かさ)。ふた。

\*猶有…なお…がある。まだ…がある。 \*傲霜…霜にあつても枯れない。霜に屈しない。

\*橙黄橘绿…ダイダイが黄色を帯び、ミカンが緑色になる。

【通釈】ハスの花は尽きて、とつくに無くなり、雨に捧(ささ)げ持つ傘(かさ)(ハスの葉)は、菊の花は盛りを過ぎてそこなわれたが、なお霜に屈せず  
に咲いている枝がある。一年の中のすばらしい景色を、あなたは覚えておいてほしい。ちょうど、ダイダイが黄色を帯び、ミカンが緑色の時季  
だ。